

貨物軽自動車運送業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
2000	8	17 ～ 18	バイクで配達が終わりに国道を走行中、前方の車と車の間をすり抜けていたときに急ブレーキをかけたため転倒して身体が前方に投げ出され、左前方を走行していたトラックに巻き込まれた。	231	17	1～ 9
2001	6	9 ～ 10	3tトラックが高速道路上で故障したのでレッカー車2台で移動する準備をしていたところ、後方から走行してきた10tトラックに激突された。	221	17	30 ～ 49
2002	12	8 ～ 9	トラック（最大積載量15 t）の荷台上で、石膏ボードを固定している台付ワイヤーを外すために積荷上を移動中、2.5m下の地面へ墜落した。	221	1	100 ～ 299
2003	9	13 ～ 14	宅配便の運送業務委託契約を締結していた者が委託契約のトラブルで委託先の店内に押し入り、支店長および社員7人を人質として立てこもり、人質としていた社員を解放したものの、その後、事務所が爆発炎上し、室内から支店長と本人の遺体が発見された。	921	90	10 ～ 29
2003	12	17 ～ 18	軽乗用車を運転して貨物の配達中、片側二車線の道路上で道路左端の路側帯から反対車線に大回りしたときに、追い越し車線を走行してきた後続の乗用車に追突された。	231	17	1～ 9
2004	7	6 ～ 7	軽貨物自動車を運転して配送先に向かう途中、交差点左側から来た自動車と衝突した。	221	17	1～ 9

2004	8	2 ～ 3	4 t 車で高速道を走行中、前方を走行中のトレーラーに追突した。	221	17	1～ 9
2004	10	11 ～ 12	不定型に固められた残留ポリエチレンを運搬するため、バケットを取り付けたフォークリフトで残留ポリエチレンをすくいバケットを約2.6m上昇させるところ、帯状の残留ポリエチレンが垂れていたため、これを切断した時に残留ポリエチレンのかたまり（約300kg）が落下し、その下敷きとなった。	222	4	1～ 9
2005	12	0 ～ 1	トラックで走行中、右カーブに差し掛かったところで路肩からはみ出し、電柱に激突したはずみでトラックが横転し、被災者がトラックの下敷きとなった。	221	17	1～ 9
2007	6	4 ～ 5	被災者がワンボックス車にて、県道を走行していたところ、センターラインを越えた対向車線の10 t タンクローリー車に衝突された。	221	17	10 ～ 29
2008	7	9 ～ 10	国道を荷物の配送のためバイクで走行中、交差点で対向車線から右折してきた自動車と衝突した。	231	17	10 ～ 29
2008	12	10 ～ 11	軽トラックでフェリー乗場に向かっている国道上で、対向車が対向車線にはみ出したため被災者の軽トラックと正面衝突した。	231	17	1～ 9
2010	1	4 ～ 5	配送先に積み荷のパンを届け、会社に戻る途中、国道のガードレールを突き破って約9 m下の川に転落、運転していた被災者は全身を強く打ち死亡、助手席の同僚男性も腕などに軽いけがを負った。現場は片側1車線の右カーブで、当時、路面は凍結していたとみられている。	221	17	10 ～ 29
2010	8	11 ～ 12	被災者運転の軽トラックが国道を走行中、運転を誤って中央分離帯を乗り越え反対車線に入ってきたトラックと衝突したもの。現場は片側2車線のほぼ直線の道路であり、後続車など4台が関係する事故となった。	221	17	10 ～ 29

2011	11	10 ～ 11	ディスカウントストアに飲料水を納品し、被災者は1階へ戻るため、他事業場の労働者と地下1階より自動車用エレベーターに搭乗。自動車用エレベーターが上昇中、搬器内で突然倒れ、搬器の外に頭部が出てしまい、昇降路内の建物躯体と搬器の床との間に挟まれたもの。	214	7	～ 99	50
2012	1	5 ～ 6	被災者は配送先でトラック脇に倒れているところを発見され、救急搬送された病院で死亡が確認された。	921	90	～ 49	30
2012	12	20 ～ 21	被災者は荷積みし、最大積載量2tのトラックを運転して自宅へ戻る途中、国道（片側1車線の直線道路）において、中央線を超えた対向車（大型トラック、最大積載量14t）と正面衝突し、脳挫傷により死亡した。なお、対向車の運転手も死亡した。	221	17	9	1～
2014	6	5 ～ 6	普通トラックで片側一車線道路を走行中、対向車線からセンターラインをはみ出してきた大型トラックに正面衝突された。	221	17	9	1～
2015	4	7 ～ 8	平成27年4月9日14時30分に軽四輪車に荷物を積み込み事業場を出発。4月10日の4時頃に現場に到着し荷卸しを行い帰る途中、道路を走行中に被災者がセンターラインをオーバーし大型トラックに正面衝突したものの。	231	17	9	1～
2015	9	15 ～ 16	事業場の第3工場棟から第2工場棟へ機械設備を移設作業中、機械設備の一部であるミストコレクター（重さ20kg程度）を繊維ベルトで玉掛けし、同ベルトの一端をフォークリフト（最大荷重1500kg）のフォークに引っ掛け、つり上げた状態で第2工場に向けて運搬していたところ、ミストコレクターの介添えのためにフォークリフトに併走していた作業員がフォークリフトの右前輪で轢かれ死亡したものの。	222	7	29	10 ～
2016	7	19 ～ 20	出勤し、荷物を積むために道路を走行中トンネル内で左側壁に接触後、対向車線にはみ出し、直進してきた対向車と正面衝突した。	221	17	49	30 ～
			被災者は建設現場へ資材を運搬するために貨物自動車（種類：平ボデー、				

2018	10	10 ～ 11	最大積載量：2トン、車両総重量：約4.5トン）を運転して向かってい たが、傾斜が緩やかな行き止まりの市道に立ち込んだため停車し、配送先 の建設現場を確認しようと（推定）降車したところ、車両が動き出したた め、車両を止めようと貨物自動車の前に立ち入り、貨物自動車と高さ約7 0cmの車止めに挟まれ死亡したもの。	221	17	1～ 9
2020	9	12 ～ 14	自動車道を進行中の大型トレーラーが、ガードレールを突き破り約5メー トル下の斜面に転落し、運転席に乗車中の被災者が死亡したものである。 （単独事故、現場は下り勾配の右カーブ）	221	17	1～ 9
2020	8	6 ～ 8	被災者は、配送先への配送完了後、ワゴン車で事業場へ戻っていたとこ ろ、坂下トンネル内で、被災者が運転するワゴン車が側壁に激突し、その 弾みで対向車線の側壁に激突し、車外に投げ出された状態で発見された被 災者が、搬送先の病院で死亡したもの。	231	17	10 ～ 29

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。